

文部科学省宇宙航空研究開発機構部会(第30回)における委員からのコメント

項目	委員	コメント
本文 III.1.2項	赤松委員	以下の「インフラ構築」について、何を指しているか言葉を補って頂きたい。 Ⅲ. 1. 2. 地球観測・通信・測位 (前略)戦略的なインフラ構築への貢献や外交ツールとしての活用等を通じて、互恵的な国際協力体制といった宇宙開発・利用における国際的なポジションや影響力の獲得・強化に繋げる。
本文 III.5.1項	赤松委員	以下の「独立に評価を行う」について、担当部門とは独立した立場でという意味となるのか、言葉を補って頂きたい。 Ⅲ. 5. 1. システムズエンジニアリング／プロジェクトマネジメントの推進及び安全・信頼性の確保 (1)システムズエンジニアリング／プロジェクトマネジメント (前略)プロジェクトが適切に進められているか独立に評価を行うことで、適切な総開発費の設定や実現可能な開発スケジュールの策定等、機構のプロジェクト推進にあたって必須となる計画立案・執行の着実な実施に貢献する。
本文 VI.1項	高橋部会長	経営層に対し、業務量とリソースを常に把握しながらマネジメントしていくという意識を持っていただきたい。
別添2	赤松委員	全体に〇〇の件数というモニタリング指標が多いが、これらの指標は計画値があって、その妥当性とともにもそれとの対比で評価される点を、全体にかかる方針として記載頂きたい。またこれまでに確立し運用してきた、プロセス、アウトプット、アウトカムの視点で評価する点は大事なので、全体にかかる方針として記載頂きたい。
別添2	赤松委員	単に件数だけでなく、どの程度のコストや期間の遅延や前倒しが発生したのか、定量値を示すよう設定してはどうか。
別添2	赤松委員	中長期計画においては、いつまでに何を達成するのかというマイルストーンが欠けているケースが多いので、その設定を定義してはどうか。
別添2 III.1.2～4項	赤松委員	概数で良いので、産業貢献により生まれた事業規模(開示可能な範囲で、個別事業ではなく総額ベースで良い)を定義してはどうか。
別添2 III.1.5項	赤松委員	ロケットに関しては、最終的に民間移転して運用していくことになっているところ、その進捗に関しても指標として定義してはどうか。

文部科学省宇宙航空研究開発機構部会(第30回)における委員からのコメント

項目	委員	コメント
別添2 III.2項	赤松委員	この項に関しては産業貢献がどれだけ成されたかが特に重要であるので、件数だけでなく、概数で良いので、産業貢献により生まれた事業規模(開示可能な範囲で、個別事業ではなく総額ベースで良い)を定義してはどうか。
別添2 III.3項	赤松委員	事後評価になるかもしれないが、他の競争資金でも評価軸となっているように、アウトカムに関する指標も必要と考える。具体的には、産業創出がどれだけ成されたかが特に重要であるので、概数で良いので、産業貢献により生まれた事業規模(開示可能な範囲で、個別事業ではなく総額ベースで良い)を定義してはどうか。
別添2 III.4項	赤松委員	他の項目で定義されている「研究開発成果が寄与した民間等の技術やサービスの数」が無いが、航空科学技術こそそれを銘に開発を実施されているので、その項目を定義して頂きたい。
別添2 III.5.1項	赤松委員	過去のロケット失敗等に際して、自分事としての認識が薄かったと感じられたこともあり、より確実なミッション成功に貢献するという意識をもって頂くため、「ミッションが計画通り実施できたか」自体を評価指標とするべきではないか。
別添2 III.5.2項	赤松委員	最近では外交での成果につながるケースも出ているので、その点も指標に加えてはどうか。
別添2 III.5.3項	赤松委員	意識調査を行い「認識された課題をどうJAXAの事業に反映したか」も評価指標にしてはどうか。
別添2 III.5.3項	赤松委員	単に関心度変化だけでなく、育成すべき人材像を定義した上でそれがどれだけ育成できたかを評価指標とするべきではないか。
別添2 III.5.4項	赤松委員	昨年度の情報漏出事故においては、重大性の認識が薄く報道関係とのコミュニケーションも十分でなかったと感じられたため、「重大事故発生時の迅速かつ適切な対応及び社会との適切なコミュニケーション」を評価指標としてはどうか。
別添2 III.5.5項	赤松委員	施設・設備に関しては中長期でのマイルストーンが明確でない点もあるので、「中長期の整備・更新計画とマイルストーンの設定および定期ローリング」を加えてはどうか。